アンサンブル・リベラ・バロッコ　コンサート 2018秋

リコーダーで聴くバロック音楽のひととき

～リコーダーが一番輝いていた時代～

Ensemble Libera Barocco

新林 俊哉　リコーダー
関根 大地　リコーダー

リコーダー
安藤 由香（賛助出演）

2018 9月24日

札幌市資料館 2階研修室
13:30 開場　14:00 開演

■主催：アンサンブル・リベラ・バロッコ　■後援：札幌市、札幌市教育委員会

～ PROGRAM ～

✦ James Hook (1746-1827) イギリス

J. フック ： 3 本のフルートのための6つのトリオ第一番 Op.83-1 より

1. 第一楽章 Allegro con spirito 2/4

Alt1 安藤由香／Alt2 新林俊哉／Alt3 関根大地

J.フックは1746年、イギリスの東部ノリッチで生まれ、鍵盤奏者として幼少から才能を発揮し、オルガニストとしても活躍しました。ロンドン市内のガーデンで毎晩のように協奏曲を演奏し、2000 曲を超える作品を作曲したと伝わっています。 この曲は3本のフルートまたはヴァイオリンのために作曲されたもので、出版された1797年は時期的にはバロックは終わり古典派に入っており、作風もハイドンを思わせる明快で楽しい音楽です。

✦ Michel Blavet (1700-1768) フランス

M. ブラヴェ ： 小品集より 2本のリコーダーのための組曲 ト短調

1. Prelude 3/2　2. Air dans Castor et Pollux 2/2　3. Gavotte en Rondeau dans Zoroastre 4/4
4. petit Duo Leger 2/4　5. La Touriere（門番） 4/4

Alt1 新林俊哉／Alt2 関根大地

ブラヴェは18世紀のフランスに活躍したフルート奏者で、ヴィルトゥオーゾな演奏で当時大変な人気を誇っておりました。 作曲家としてもフルート・コンチェルトや通奏低音付きのソナタ集など、フルートのための曲もいくつか作曲しておりますが、いずれも高度なテクニックを要する華麗な曲が多く、自身が演奏した事を忍ばせます。またヘンデルやラモーなど当時知られていた有名な作曲家の曲を100曲以上を集め、3巻から成るフルート2重奏の曲集を編纂しており、バロック・フルート二重奏の貴重なレパートリーとして知られています。 今日お聴き頂く組曲はこの小品集の第3巻から5曲を抜粋し、ホ短調の原曲を短三度上げてト短調の組曲としたものです。

✦ Johann Joachim Quantz (1697-1773) ドイツ

J.J. クヴァンツ ： デュエット 第3番 ニ短調 Op.2-3

1. Allegro 4/4　2. Larghetto, alla Siciliana 6/8　3. Tempo di Minuetto ma Grazioso 3/4

Alt1 安藤由香／Alt2 新林俊哉

クヴァンツはドイツで活躍したフルート奏者でプロイセン王フリードリヒ2世（大王）の宮廷音楽家兼フルート教師としても活躍しました。フリードリヒ2世は大のフルート好きで、一度 M.ブラヴェを宮廷音楽家として招こうとしましたが、断られてクヴァンツがその地位に着いたという逸話が残っています。大王の宮廷音楽隊には若かりし C.Ph.E バッハもおりましたが、クヴァンツは最高額の報酬で仕えておりました。 大王のためにも多数のフルート曲を作曲しており、6曲からなるこのデュエット集は1759年に出版されましたが、まず最初に大王とクヴァンツで演奏されたのではと想像されます。楽譜には強弱（フォルテ・ピアノ）の指示が書かれており、ポスト・バロックへの変遷が伺えます。 原曲はロ短調ですが、F 管アルトリコーダー用にニ短調に移調しての演奏です。

✦ Joseph Bodin de Boismortier (1689-1755) フランス

J. B. ボワモルティエ ： 3本のフルートのためのトリオによるソナタ ロ短調 Op.7-2

1. Moderement 3/4　2. Gayment 4/4　3. Lentement 3/2　4. Gigue 6/8

Vf1 安藤由香／Vf2 関根大地／Vf3 新林俊哉

ボワモルティエはフランスの作曲家で、器楽曲や声楽曲、劇音楽まで幅広い分野で活躍し、テレマンに劣らない多作家でもありました。 独自に出版活動を始めて、教会や王侯貴族の庇護を受けずに楽曲の出版のみで生計を立て財を成した当時としては稀有な作曲家でした。 フルートのための作品も多く、通奏低音無しのフルート二重奏も多数の作品を残しておりますがフルート3本の3重奏は大変珍しくこの曲集の6曲のみです。 本日はヴォイス・フルートと呼ばれる D 管のリコーダーを用いて原調のロ短調での演奏です。

～ PAUSE ～

✦ Georg Philipp Telemann (1681-1767)　ドイツ

G. Ph. テレマン　：　2本のリコーダーのための組曲ソナタ　第5番　ニ短調　TWV40:105

1. Largo　6/4　　2. Vivace　3/4　　3. Grazioso　3/4　4. Allegro　9/8

Alt1　安藤由香／Alt2　新林俊哉

テレマンはドイツの作曲家で、当時はバッハよりも人気があり、3000曲を越す多作と楽譜の出版で収入を得ていた事でも有名です。 自身でも鍵盤楽器は元より、ヴァイオリン、フルート、リコーダーを達者に演奏したそうで、リコーダーのための作品もいくつか残しております。 テレマンは通奏低音を伴わない2重奏を4冊出版していますが、その最初に出版された曲集です。 タイトルには「2本のフルート、ヴァイオリン、（またはリコーダー）のためのソナタ」と書かれています。 当時は D 管フルート曲を F 管のアルトリコーダーで演奏する場合は短3度上に移調して演奏する事が一般的に行われており、この楽譜にもその指示が書かれています。 テレマンのフルート曲は、リコーダーで演奏してもとても聴き映えのする曲が多く、リコーダー奏者にとって大変有り難い作曲家です。

✦ Michel Pignolet de Montéclair (1667-1737)　フランス

M.P.de モンテクレール　：　2本のフルートのためのコンセール　第4番　ロ短調

1. Dialogue　2/4　　2. La Rieuse　2/4　　3. La Terpsichore　3/4　　4. L'Allemande 2/4

5. L' Angloise　3/4　　6. L' Italienne　6/8　　7. La Françoise　2/4　　8. La Picarde　2/4

Vf1　新林俊哉／Vf2　安藤由香

モンテクレールの生涯については残念ながらほとんど知られておらず、確実な肖像画も残されておりません。9歳の時に聖歌隊学校に入ったという記録が残っています。 作曲家として残されている作品も少なく、いくつかのカンタータがありますが、それでも「フルートと通奏低音のための6つコンセール」そして「2本のフルートのための6つコンセール」はバロック・フルートにとって貴重なレパートリーとなっています。 この通奏低音を伴わない2本のフルートのための曲は同時代のフランスの作曲家・フルート奏者「ミシェル・デ・ラ・バール」によって始められ、その後モンテクレールの他、オトテール、フィリドール、ボワモルティエらに受け継がれて行きました。 モンテクレールのコンセールは当時のフランス組曲の形式に則り、いくつかの舞曲で構成されていますが、途中にプレリュードがあるなど、ほとんど2曲分の構成になっているものが少なからずあります。 今日お聴き頂く第4番も前半の4楽章に比べ、後半の5楽章からは趣が変わり、各国（イギリス、イタリア、フランス、フランス北部のピカルディ地方）の女の子という表題が付けられております。 原曲はイ短調ですが、ヴォイス・フルートを用いロ短調として演奏いたします。

✦ Johann Mattheson (1681-1764)　ドイツ

J. マッテゾン　：　3本のリコーダーのためのソナタ　第3番　ト短調　Op.1-3

1. Prelude Adagio　4/4　　2. Allegro　3/8　　3. Chaconne　3/4

Alt1　安藤由香／Alt2　関根大地／Alt3　新林俊哉

マッテゾンはドイツの作曲家でヘンデルとはとても親しい友人でしたが、マッテゾンのオペラ「クレオパトラ」の上演中に突然二人が喧嘩を始めて、あやうくヘンデルを刺殺しそうになったという逸話が残っています。後に和解し、マッテゾンはヘンデルの伝記を自費で出版しています。 作品としてはオペラやオラトリオ、カンタータなど、歌を含む劇音楽で多くの曲を残し、数多くの学究的著書を残した理論家としても有名です。 このソナタは2本、または3本のリコーダーのために書かれた12曲のソナタに含まれており、2重奏が4曲、3重奏が8曲で構成されています。 バロック時代でも純粋に「リコーダーのための」作品として書かれたものは実は珍しく、本日演奏する他の曲も元々は「2(3)本のフルート」曲として書かれており、リコーダーは明示的には含まれていない曲がほとんどです。 本日演奏するソナタ第3番は特に最終楽章のシャコンヌが独特で、3本のユニゾンで始まり、2本のユニゾンを経て展開しますが、第3パートはほぼ一貫して主旋律だけを繰り返していくというとても印象的な曲です。

曲目解説：新林俊哉

ご挨拶

本日は私共アンサンブル・リベラ・バロッコの演奏会にお越し頂きありがとうございます。教育楽器として広く知られているリコーダーですが、バロック時代にはヴァイオリン、フルート、オーボエと並び、旋律楽器の1つとして、活躍していた楽器です。そのリコーダーが一番輝いていた時代の音楽を集めて、この楽器の良さを改めて感じて頂こうと思いこの演奏会を企画いたしました。 選曲にあたっては、あえてバロック音楽の特徴である通奏低音の無い、旋律楽器だけの為に書かれた2重奏、3重奏の曲に絞って選びました。もちろん、曲の中では通奏的な役割を担う旋律や音型が随所に出てきますが、旋律楽器としてのリコーダーの活躍ぶりをより感じて頂けるものと思います。

PROFILE

安藤 由香 Recorder

東京藝術大学古楽科卒業後、様々な合唱団・室内アンサンブル等と共演。 また読売・日本テレビ文化センターにてアンサンブル・個人レッスンにあたり、2011年リヨン国立高等音楽院古楽科リコーダー専攻に入学。中世・ルネサンス時代のリコーダーを含めたアンサンブル・古楽和声・作曲法等を学ぶ。16世紀フランスルネサンス教本から研究を行い、2016年フランス国家演奏家資格を取得し、日本へ帰国。また4年間に渡り愛好家のための季刊誌「季刊リコーダー」にコラムを寄稿、2016年から2020年まで中学器楽教科書　音楽のおくりもの（教育出版）に指導者兼アシスタントとして掲載。現在は札幌や北見でリコーダー指導にあたる。

新林 俊哉 Recorder

北海道大学電子工学科卒業。バロック・フルートを中村忠、高橋理恵子、佐藤こずえ各氏に、フルートを熊本利絵氏に師事。またリコーダーを江崎浩司、岩田泰氏に師事。 各地の音楽祭，セミナーにてバルトルド・クイケン、有田正広、花岡和生各氏のレッスンを受ける。古楽アンサンブル・リベラ・バロッコ、モンテクレールアンサンブルを主宰し、バロック室内楽を中心にカンタータ、コンチェルトなど多数の演奏活動を行っている。また、ルネッサンス・フルートからアイリッシュ・ホイッスル、ケーナなど多種の笛を使った「いろんな笛」コンサートを開催している。

関根 大地 Recorder

北海道大学薬学部在学中。リコーダーを金子健治、花岡和生、本村睦幸各氏に、古楽演奏法・通奏低音基礎を岩渕恵美子氏に学ぶ。2012年に全日本リコーダーコンテスト独奏の部で金賞受賞。高校時に荒川洋氏（新日本フィル首席フルート奏者）と共演。大学入学後は三岸好太郎美術館リサイタル、北海道大学総合博物館コンサートなどに出演。バロック音楽を中心とした演奏活動を行う。また、北海道大学リコーダーアンサンブルに所属し、ルネサンスから現代まで幅広いレパートリーに取り組んでいる。

ご来場ありがとうございました。